

第49号

発行：令和2年8月

会員数：206名（7月末現在）

（家族会員=20名、個人会員=196名）

発行責任者：飯田 秀

編集責任者：出口 孝次

松浦武四郎記念館友の会

友の会だより

友の会事務局：

松阪市小野江町 383

松浦武四郎記念館内

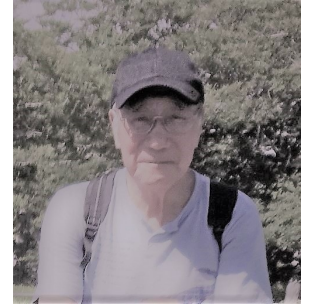


「友の会」のHPは、松阪市HPの中にあります。

<http://www.city.matsusaka.mie.jp/site/takesiro/tomonokai.html>

（松阪市で検索してね）

「松浦武四郎について」 副会長 田中 恒



松浦武四郎記念館友の会に入会し10年になります。

今年新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた取り組みとして3蜜（密閉空間、密集空間、密接場面）を避けるため定期総会の中止及び記念講演の場所の移動、神鏡を訪ねるバスの旅の日程変更、松阪偉人顕彰団体協議会の総会・予定開催の中止等あらゆる会合に及んでいます。一刻も早い新型コロナウイルスの感染終息を願っています。

さて、この10年間で、もっとも記憶に残っているのは、北海道の旅（天塩川方面の旅、釧路方面の旅）で地元の方との交流と、アイヌ民族の生活・暮らし、また松浦武四郎を支えた絆など強く印象に残っています。そして、7月12日にオープンしたウポポイの国立アイヌ民族博物館など南北海道（小樽、函館など）へ一度旅をと考えています。

そして、

* 武四郎の五つの業績から自分に合った業績をと考えています。

① 親からの資金と篆刻による資金の調達

篆刻作りの名人……一日に100個の制作（石に文字を刻んでハンコを作る）

② 絵が得意……アイヌ民族の暮らしを紹介「蝦夷漫画」

③ コレクター……古書、骨董、古材（一昼敷の書斎の材料）

④ ヒューマニスト……文化の異なる民族に偏見を持たず親交を深め窮状を聞き取ったルポ「近世蝦夷人物誌」

⑤ 体力……28歳から41歳までに蝦夷地探検を6回行う
70歳にして富士山（一合目から頂上）

最後に、まだまだ新型コロナウイルスの感染拡大が広がっています。そして、この夏の熱中症対策についても充分気をつけて活動いただくようお願いいたします。

「友の会の行事計画」・・・新型コロナウイルスの状況で変更します！

9月13日（日）武四郎講座（友の会主催）：講師は石水博物館学芸員「川喜多石水と松浦武四郎」

26日（土）飯高町への「武四郎の足跡を訪ねるツアー」（社協のバスを出していただける）

11月：1ヶ月間 誕生地での「友の会活動展」：母屋に展示する（展示見学だけなら無料）

11月16日（月）「神鏡を訪ねるバスツアー」（武四郎が聖蹟二十五霊社の1つとした長洲天満宮 他へ）

12月 友の会だより発行

12月中旬 「会員交流懇談会」

1月中旬以降 友の会会員向けの特別講座「拓本体験会」：講師は西村欣也さん

3月に誕生地で「拓本体験会の作品展」：母屋に展示する。

2月28日（日）「第26回武四郎まつり」にブース出展及び活動展

「三雲振興局ほっとギャラリーで活動展示」



夕刊三重でも紹介されました。三雲の皆さんにはさらに応援いただき、世界に誇れる偉大な先輩として多くの方々へ紹介いただきたいなと思います！新聞で取り上げていただけたことで松阪市民だけでなく、広く三重県中の方が武四郎さんを先輩として誇れるようになってくれたらと思います。

『松阪ガイドボランティア友の会』との交流会に参加して

7月22日第一公民館にて、標記団体との交流会を行いました。先方から7名が、当方からは役員7名、一般会員2名の出席がありました。

『松阪ガイドボランティア友の会』は、昭和62年『松阪の町あるき』グループを結成し活動を始め、現会員数は33名だそうです。他市民の方から松阪市観光協会等に寄せられたガイド要望に応じて、松阪市の中心街をメインに観光ガイド活動を行なっている団体で、昨年度のガイド実績は、案内件数361件、案内人数約5,300人、ガイド活動をしたのはのべ384人ということでした。

結成時から中心的役割を担っている三好会長から、いろいろな提言がありました。その中の一部を紹介します。

「町のガイドを担う為の基本的な心構えとして、世の中が平和で安全が保たれることより、安心して暮らせる状態であってこそ人々に観光行動が芽生える。」

「ガイドする人は、この町に住んでこの町が大好き。この町を形どってくれた人々を知り、それらの人々が大好き。この町を訪ねて下さった人々に感謝を。等の気持ちを持ってこそガイド役が果たせます。」

意見交換の部に於いて、友の会の活動に関する印象を飾り気なく語って頂き、「友の会の皆さんの活動によって、『武四郎の名前』は松阪市民の中に広まりつつあるが、行き渡っている状態とは言えない。さらに、名前を知って頂く事も大事だが、より大事なのは、『武四郎の功績を』を市民に適切に認知して頂くことにあると考えるので、みなさんの更なる活動に期待しています。」と、ご意見を頂くなど、約2時間の有意義な交流会でした。【理事 柴田 実 記】



「舟戸(飯高町舟戸)を訪ねる研修会」に寄せて 中野 恭(旧一志郡在住会員)

「街道」という言葉を聞くだけで、胸が高鳴るのは、一体何故だろうといつも思う。

私の在所にも河川に沿いながら脈々と続く集落を、縫うように貫く「街道」が走っている。いわゆる北畠街道とも呼ばれた「多気の御所」に行き着く古来からの道である。街道筋には、出城や砦が数箇所あり、矢頭峠には仁王門を備えた「関」を設けていたと古老より聞く。

偶然、私の在所も「波瀬」であり、俗に「北畠の喉仏」と評される。

ところで、秋口の9月に飯田秀会長が熱意をこめて実施される研修の場は、名にし負う松阪市飯高町「波瀬」の山懐に奥深く抱かれた「舟戸」である。

飯南・飯高を貫き、高見大峠・高見小峠を越えて、大和に向かう街道こそ、まさに風格を備えた道である。和歌山街道と名付けられたこの道こそ、何代目かまでの紀州侯が江戸表への参勤の折、壮大且つ華麗な大行列を組み上げて通った街道であり、いわゆる「藩道」である。

さて、三雲が生んだ郷土の偉人である松浦武四郎の紀行文「庚辰紀行」を紐解けば、明治13年、和歌山街道を歩いていることがわかる。彼の主たる目的は、「大峰奥駆け」の敢行であった。小野江に立ち寄った後、山田に赴き、尊敬する亡き師宅を訪ね、両宮参拝を済ませた武四郎は、

田丸より和歌山別街道を進み、丹生を經由しながら粥見に差し掛かる。そして、辻や新七宅に宿泊したあと、宮前村・田引村・七日市から大定峠を越えて、乙栗子・加波村から波瀬村に至る道筋をとって、舟戸村を目指すのである。「庚辰紀行」に目をやると「なじみ深い地名」等が時々刻々と書かれていて、それこそ胸躍る。いよいよ、武四郎は筆を進める。

『此処よりますます両岸岩おもしろく、山またあやしく地形一変す。舟戸村入口なる長野屋と云に泊。また、食事、夜具等忍びざる粗末にして、実に困却すれども、人気の質朴

なるには感じぬ。爰にて巡国巡業と同宿したり。また歩行荷物斗二十人斗泊り有。三日、村中二十二丁斗行、爰にて人足を頼、坂に懸る。川有、土橋、二十丁上りて、道の右に入鹿大臣の五輪塔有。少々行きて茶屋一軒有。また、三十丁、九折を上りて、いせの国一面に見ゆ。また西に熊野も見え大和も吉野郡の分は見ゆる也。高見峠、是またいせ分也。・・・』

私は、はっと思った。街道は「時代に即応した歴史をその懐に抱いているのだ。」と。街道は、人を運ぶのみにあらず。街道にはその国の「文化」とその国の「誇り」を、旅人が大地を踏みしめながら運び続けて来たという積み重ねがある。まさに、「街道」という言葉を聞くと胸が高鳴る所以である。

つまり、今回の舟戸への研修は、単に武四郎が世話になった宿を追い求めるのみではなく、ひたすら吉野を目指した武四郎の篤き「思い」に触れ、明治13年の紀行文に記した道筋を辿る「街道の旅」なのである。

当日は、「舟戸を訪ねる研修(フィールドワーク)」の機会を捉えて、「武四郎の思い」を少しでも伝えられればと願いつつ、春先に、飯田会長よりたつての依頼を受ける形で、ここに記した次第である。



舟戸の長野屋跡と考えられる空き地



【記念館よりお知らせ】

☆記念館講座のご案内

- 9月13日(日)10:00～テーマ：「川喜多石水と松浦武四郎」 桐田貴史 石水博物館学芸員
10月11日(日)10:00～テーマ：未定
11月8日(日)10:00～テーマ：未定
12月13日(日)10:00～テーマ：未定

※新型コロナウイルス(COVID-19)の感染は、本県について8月3日現在、144人の感染が確認されています。県外からの入館者もあることから、本記念館での多人数の会は自粛せざるを得なくなり、9月も嬉野図書館2階会議室での講座になります。

☆展示のご案内

7月14日～9月6日「武四郎の蝦夷地調査」

武四郎は幕末に6度におよぶ蝦夷地調査を行っていますが、その調査記録は、のべ151冊にのびます。武四郎が出版した紀行本などの著作や、武四郎に贈られたアイヌ民族資料を中心に、調査の様子やアイヌの人々の姿を紹介します。

9月8日～11月1日「武四郎の詩と歌」

武四郎が生涯で詠んだ漢詩や和歌に関わる資料を展示し、漢詩や和歌から読み取ることができる当時の状況や、武四郎の心情を紹介します。

11月3日～1月11日「武四郎の集めたもの」

晩年に古物の収集を行い、収集家として活躍した武四郎が集めた様々なモノを紹介します。

【友の会よりのお知らせ】

神鏡を訪ねるバス旅行について

11月16日(月)に大阪方面の道明寺天満宮、長洲天満宮などを訪ねる予定ですが、新型コロナウイルスの状況により、延期する場合があります。

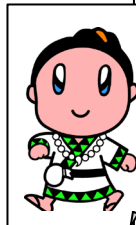
「武四郎の足跡を訪ねるバスツアー飯南・飯高」のご案内

松浦武四郎記念館友の会として社会福祉協議会のバスを貸し切って飯高まで行きたいと思います。市の方から席数の半分しか乗れないということで、募集人員は16人と少ないのですが、武四郎さんが奈良県へ抜ける時に、高見峠を越えた時の足跡をたどるのは初めての方が多く、行ってみたいという声があり計画しました。定員になり次第しめさせていただきます。

期間：令和2年9月26日(土) 午前9時～午後5時頃

出発場所：松浦武四郎記念館

行き先：粥見神社前の道標、粥見の辻や新七跡、道の駅飯高(行きと帰りのトイレ休憩)、田中屋資料館、美滝会館(昼食)、舟戸の長野屋跡、和歌山街道を歩く(急勾配)五輪塔・能化庵・両部曼荼羅、水屋神社



会費の納入について

新年度の年会費を、9月末までに納入とお知らせしましたが、12月迄とさせていただきます。納入いただけない方は、退会されたものと致します。納入については、役員又は記念館事務所へお届けください。

来ることができない方は、お問い合わせください。

「松浦武四郎記念館友の会のあゆみ」を購入したい方は、記念館受付にて、会員限定で100円です。また、記念館で貸出もします。氏名・連絡先を記入して頂きますようお願いいたします。また、県立図書館にて、7月19日から展示していただいています。

次回の発行は、
12月の予定です。

